

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 6 市民が自立して生活できる

行動目標 6 - 4 障害のある人の自立と社会参加を促進する

(所管課名 保健福祉部あけぼの学園)

任務

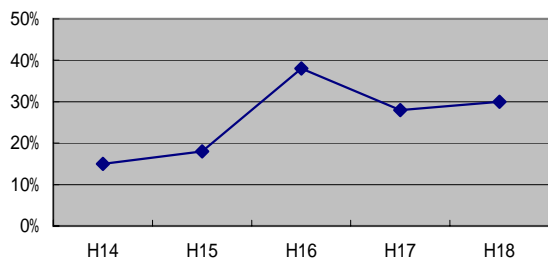
障害のある乳幼児の早期療育をする
保護者の利用満足度を高める

任務の成果・活動指標の推移

発達指数が伸びた児の比率

H14実績	15%
H15実績	18%
H16実績	38%
H17実績	28%
H18目標	30%

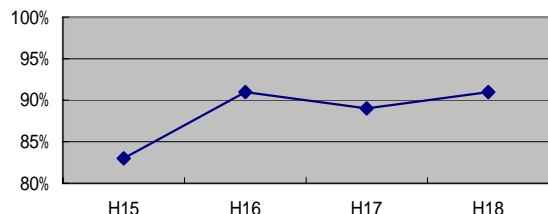
発達指数が伸びた児の比率



保護者の満足度割合

H14実績	-
H15実績	83%
H16実績	91%
H17実績	89%
H18目標	91%

満足度率



指標の説明

早期療育の成果を数値で表すことは困難であるが、生活年齢(実年齢)に対する発達年齢(発達検査結果の年齢)を発達指数として、それが伸びた児の比率を指標とした。また、保護者に対して、学園の指導、相談、援助等に対する評価をアンケート調査し、満足度合いを指標とした。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

平成16年度は週1日のデイサービス事業で通っていた子ども達が、例年より多く措置入所となり、毎日の通園による学園の早期療育効果の向上がみられ、発達・成長した子どもが前年より大きく増えた。しかし、17年度においては発達の横ばい(子どもの発達の一面でもある力を蓄える時期)の子どもが多かった。

保護者の満足度については、平成16年度は前年に比べ8%高くなったが、17年度についてやや下がったものの90%近くの保護者から満足を得られた。

平成18年度

平成18年度は、個々の子どもの発達を図るべく、職員の資質を高めるため各種研修への積極的参加を予定している。

作業療法士を1名増員し、早期療育の一層の充実を図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

学園として27年が経過し、建物の老朽化、障害児の増加、障害者自立支援法(特に児童分野への動向)等の課題に対応していく必要がある。